

研究叢書シリーズ最終章！

アジア国際社会福祉研究所(ARIISW)では、この度、「仏教ソーシャルワーク探求シリーズ」9号(和文)、10号(和文・英文)を同時出版いたしました。2018 年、0号から刊行してきた探求シリーズが、ついに完結しました。

- ・「ネパールとブータンにおける仏教とソーシャルワーク」研究シリーズ No.9
- ・「東アジアにおける仏教とソーシャルワークー韓国・日本編ー」研究シリーズ No.10
- ・「*Buddhist Social Work in East Asia: South Korea and Japan*」Research Series No.10

9号では、ブッダ生誕の地であるとともに、ある意味で仏教ソーシャルワークの旅の出发点でもあり象徴でもあるネパールと、仏教の教えと実践が日常生活に深く根付くブータン、それぞれの国に焦点を当て、2部構成にて仏教ソーシャルワークの実践と基盤を成す思想について紹介しています。淑徳大学名誉博士でありネパールの高僧でもあるアチャリヤ・ラマ・カルマ・サングボ師も執筆者に名を連ねています。

10号では、東アジアにおける仏教伝播の歴史的経緯を考える際に外すことのできない重要な国である韓国において行われている仏教ソーシャルワーク実践の一端を報告しています。また日本に関しては、東日本大震災に際して「日本仏教」が担った福祉的実践活動を主たる事例として取り上げ、アンケート調査や現地ヒアリング等を行った研究成果を掲載。海外の研究者や実践者の皆さんから求められていた日本における仏教ソーシャルワークに関する全体像だけでなく、平常時において仏教者が取り組んでいる支援、未曾有の被害が発生した非常時の中で日本仏教がどのような役割を担ったのかについて伝えています。



◆アジア国際社会福祉研究所のニュースは当研究所のホームページよりご覧いただけます。

<https://www.shukutoku.ac.jp/university/facilities/asiancenter/>

◆淑徳大学内ではSナビにて月1回程度配布されます。